

はじめに

本研究は、教授コミュニケーションと協同に関する継続研究の一環である。平成7年度に科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付をうけて『教授コミュニケーションと教授言語の研究—コミュニケーションとことばの教科論的分析—』（風間書房平成8年2月）を刊行し、平成8・9年度の科学研究費補助金基盤研究（C）（2）、研究題目「中学校社会科教師のコミュニケーション促進のための訓練プログラムの開発」（課題番号 08680288）、平成10・11年度の科学研究費補助金基盤研究（C）（2）、研究題目「社会科における児童・生徒のコミュニケーション能力形成のためのプログラム開発」（課題番号 10680267）と、教授コミュニケーションと協同に関する理論的・実証的研究を継続してきた。

教師のコミュニケーション能力開発のためには、トレーニングが必要であるとの認識から、ノンバーバルコミュニケーションを含めてトレーニングプログラムを整理し、教員の研修システムに位置づける必要があることから、科学研究費補助金基盤研究（C）（2）に、研究題目「教師活動支援のためのコミュニケーショントレーニング—スーパービジョンの開発研究」（課題番号 15530586）を申請し、採択された。研究期間は、平成15・16年度の2年間で、予算は、平成15年度130万円、平成16年度100万円、計230万円である。

平成15年度は、ノンバーバルコミュニケーションに関する理論的研究をすすめる一方で、実践分析の成果をふまえて、ノンバーバルコミュニケーションのトレーニングプログラムの作成に着手した。

平成16年度は、トレーニングプログラムを実験的に実施し、整理することに努力した。他方で、現状の教員研修の分析から、教員の資質向上のために従来とは異なった形態が必要であることを明らかにした。そして教員研修のオールタナティブとして、スーパービジョンに関する理論的研究に着手した。

以上の研究結果として、コミュニケーショントレーニングは教員養成でこそ必要であること、教員研修のためには、スーパービジョンにコミュニケーショントレーニングを統合することが必要であることを、理論的・実証的に明らかにできた。

なお、本研究の成果の一部はすでに、日本社会科教育学会第54回全国研究大会（平成16年11月6日、愛知教育大学）で発表するとともに、「授業におけるコミュニケーションの多言語性と多声性」（大阪教育大学教科教育学論集第3号、平成16年3月）と「教育学的スーパービジョン開発の基本的コンセプト」（大阪教育大学紀要第V部門第53巻第2号、平成17年2月）において発表している。

本研究成果について、忌憚のないご批判とご教示をいただければ幸いです。

平成17年3月

大阪教育大学教育学部社会科教育講座教科教育学研究室
教授 木下 百合子